



2024年
2月 20日 (火)

購読のお申し込み 06-6201-5012(代)
hanbai@sen-i-news.co.jp

発行所 ダイセン株式会社
大阪本社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-9 輸出織維会館8階
TEL(06)6201-5012 Fax(06)6226-0106
E-mail webmaster@sen-i-news.co.jp
東京本社 〒101-0036 東京都千代田区神田北乗物町11 乗物町中央ビル4階
TEL(03)5289-7003 Fax(03)5289-7233
中部・北陸支社 TEL(052)451-3850/中国・四国支社 TEL(086)224-0250
上海支局 / 黛森商務諮詢(上海)有限公司 TEL86-21-5670-1910

**織維
ニュース**

www.sen-i-news.co.jp

の山越(石川)
県かほく市)はリサイクルポリエスチル糸の新商品「リオペット」をPRした。高純度ペレットボトルの回収から、粉碎、洗浄、ペレット化までト

業が目立つた。

今回展示された商材は前回に続いた環境配慮型が中心となった「リサイクル循環」「生分解」など

愛知県 宮市で15、16日、国内最大級の糸の展示会「ジャパン・ヤーン・フェア(JYF)」が開かれた。環境配慮や機能などを中心に天然織維から合織まで幅広い素材が一堂に会した。新型コロナウイルス禍が落ち着き、国内の経済は動きだしていることは間違いない。糸を起点としたモノ作りで国内の織維産業活性化のろしを上げる。

JYF
から
見る
素材傾向

二酸化炭素から成分を抽出してポリエスチルを製造する試みも進めている。

全く新しい織維素材として注目を集めたのが、Spirber(スピーバー)。

内灘町)は生分解性ポリエスチル糸「クラフト工房」(名古屋市)が、それを開発した混紡品などの新素材を打ち出した。

機能性の商材では、ク



の洗濯でも持続する。裁断片などを独自の開織する。木曽川染織(同県笠松町)は同じ生地で7種類の起毛加工を訴求した。

たまま、「吸湿発熱」「吸放

温」「消臭」などの機能を

付与しており、繰り返し

「バゼロ」と、同加工の

派生シリーズを提案し

た。バゼロは自然なシワ

が付くカジュアルテイス

トな表情で好評を得てい

る。今後はバゼロとさま

機能性も天然、
合織幅広く

環境配慮型を中心

た。

高額ではあるが、サステナブルポリエスチル糸の流れを受け、衣料向けに採用が広がっている。付与しており、繰り返し

た。



きょうの紙面

■ワークマン 子供服など新市場開拓に布石 [2]
ワークマンは18日、都内で開いた24春夏展示会において、インナー製品の本格展開や、子供服、寝具市場への進出方針を示した。他方、ワークウェアでは安全衛生分野強化の一環として暑熱、腰痛対策品の拡充などを図る。

■住商モンブラン 代理店目線で利便性アップ [3]
サービスウエア製造卸の住商モンブラン(大阪市中央区)は、デジタル技術によって取引先ユニフォーム販売代理店の業務効率化、サービス向上につながるシステムの運用に入れている。「代理店目線で利便性を高める」ことで市場でのシェア拡大を図る。

■エックスラボ社 色の品質管理デジタル化 [6]
測色計製造のビデオエッジト・エックスライト(エックスライト社、東京都江東区)は、デザインから生産までの工程で色の品質を管理するクラウドベースのコミュニケーションシステム「テキスタイルカラーハブ」をアパレル業界に向け提案する。

■日阪製作所 環境配慮型の新機種投入 [7]
日阪製作所は今年、環境配慮型液流染色機を中心に海外での拡大に注力する。日本市場では染工場の合理化や自動化、環境負荷低減につながる機械の提案に力を入れる。

特集 「SUPER ZERO Lab ~世界への架け橋に~」 [4~5]

ごぶんぼう

書いて何と読むか。かつての日本は、スウェーデンなど並んでこ

れの世界三大生産国だった。最近は目に見える機会

が減り、難読漢字の一つ

になった▼答えはマッ

チ。先日東京都内で開催

された「東京インターナ

ショナル・ギフト・ショ

ー」に日本焼寸工業会が

ブースを構えた。以前は

焼票(やきひょう)と呼ばれていたマ

ッチラベルをデザインし

たスチール缶マッチ、長

期保存用の缶詰などが並

んだ▼同協会によると

マッチの国内生産量は最

盛期の1%程度にまで落

ち込んでいるそうだ。マ

ッチ製造販売会社は多様

な視点で需要の掘り起こ

しを図っており、先の缶

詰は災害時用。アウトド

ア・キャンプ用の商品展

開も進む▼どの産業・業

界も同じような悩みがあ

る。まさか「織維」が難読

漢字になるととは思わない

が、高みの見物ではいら

れない。少子高齢化によ

る国内市場の縮小や働き

手不足など、さまざまな

事で尻に火が付いている。

The history we connected.

守ってきた歴史と信頼。

そしてこれからも革新を進め続けるのが私たちの使命です。

ト

信友株式会社

Est. 1862

